

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の米子市(学校組合)の概要

米子市(学校組合)教育委員会

令和6年4月18日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査結果について、本市の概要をお知らせします。なお、本調査には、全ての米子市(学校組合)立小・中学校が参加しています。

1 全国の状況

本調査は、小学校では、国語・算数の2教科、中学校では、国語・数学の2教科で、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象として実施されました。調査問題については、学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題が出題されています。調査結果から、比較的できている点と課題のある点が明らかになりました。例えば、小学校国語では、話や文章の中心となる語や文を捉えることは比較的できていましたが、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫については、事実と感想、意見との区別が明確でないなどの課題がありました。また、中学校数学では、基礎的・基本的な計算技能は身に付いていましたが、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がありました。また、併せて実施された児童生徒質問紙調査では、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫していることがわかりました。

2 米子市の状況

※各教科の全体の正答率(市と県)は整数値での公表となっています。よって全国平均値との比較は、1ポイント以上の差をもって「上回る」「下回る」と表現しています。

(1)教科の概要

<小学校6年生>

【国語】	
・全体として、全国平均とほぼ同等の結果でした。	
・内容「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」では、全国平均を大きく上回り、それ以外の5観点でほぼ同等の状況でした。	
【算数】	
・全体として、全国平均とほぼ同等の結果でした。	
・「図形」の領域では、全国平均を上回りましたが、それ以外の領域ではほぼ同等の状況でした	

【国語】

区分	国語	平均正答率(%)			
		米子市	県	全国	
全体		68	68	67.7	
内容	知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	65.1(B)	65.0	64.4
		情報の扱い方に関する事項	86.2(C)	86.8	86.9
		我が国の言語文化に関する事項	75.6(B)	75.5	74.6
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	59.6(C)	58.3	59.8
		書くこと	72.0(A)	70.6	68.4
		読むこと	71.1(B)	71.1	70.7

【算数】

区分	算数	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		64	63	63.4
領域	数と計算	66.2(B)	65.3	66.0
	図形	67.3(B)	66.1	66.3
	測定			
	変化と関係	51.5(C)	50.5	51.7
	データの活用	61.1(C)	61.2	61.8

※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均値-3ポイントまでをC、全国平均との差が-3ポイント以上をDで表記しています。

※全体の平均正答率(市・県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。

<中学校3年生>

【国語】

- ・全体として、全国平均とほぼ同等の結果でした。
- ・内容「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」では、全国平均を大きく上回る状況でした。それ以外の5観点では、ほぼ同等の状況でした。

【数学】

- ・全体として、全国平均とほぼ同等の結果でした。
- ・「データの活用」の領域では全国平均を上回りましたが、「数と式」の領域では全国平均を下回る状況となりました。

【国語】

区分	国語		平均正答率(%)		
			米子市	県	全国
全体			58.6	57	58.1
内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方にに関する事項	58.8(C)	56.7	59.2
		情報の扱い方にに関する事項	59.1(C)	58.6	59.6
		我が国の言語文化に関する事項	82.6(A)	79.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	59.2(B)	56.1	58.8
		書くこと	66.1(B)	64.3	65.3
		読むこと	47.9(B)	46.2	47.9

【数学】

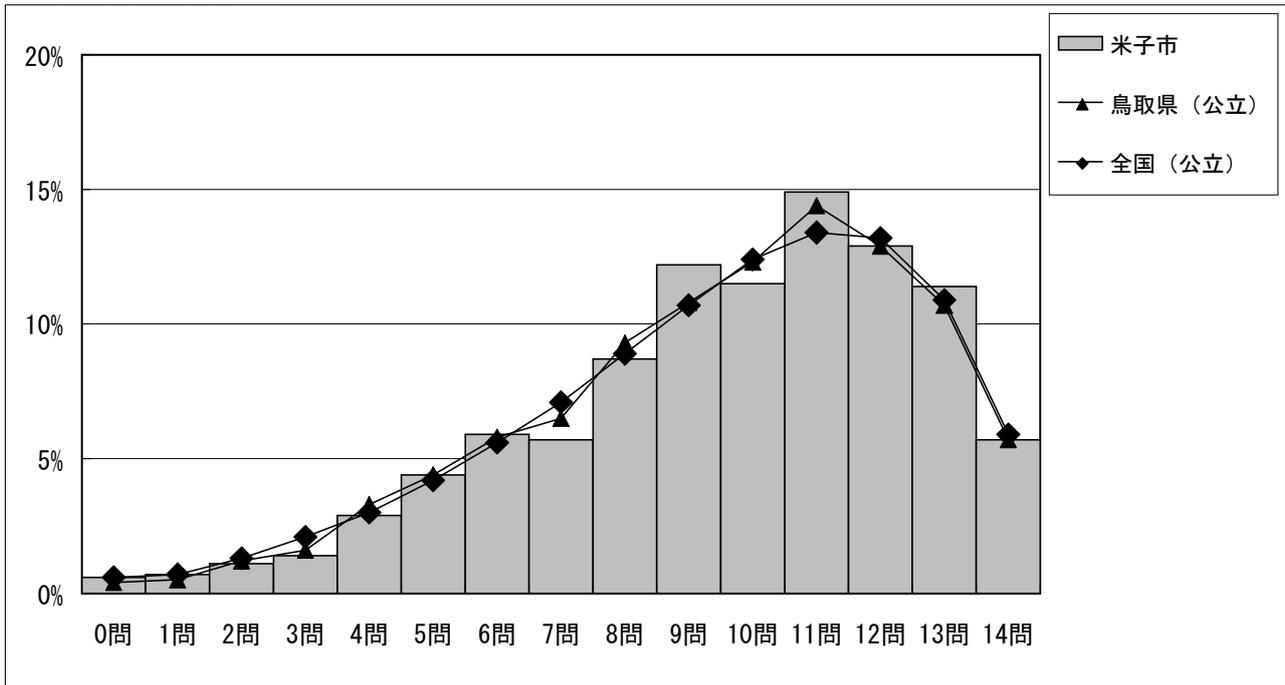
区分	数学		平均正答率(%)		
			米子市	県	全国
全体			52.5	50	52.5
領域	数と式		49.5(C)	47.4	51.1
	図形		40.6(B)	37.3	40.3
	関数		60.3(C)	58.6	60.7
	データの活用		57.8(B)	54.9	55.5

※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均値-3ポイントまでをC、全国平均との差が-3ポイント以上をDで表記しています。

※全体の平均正答率(県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。

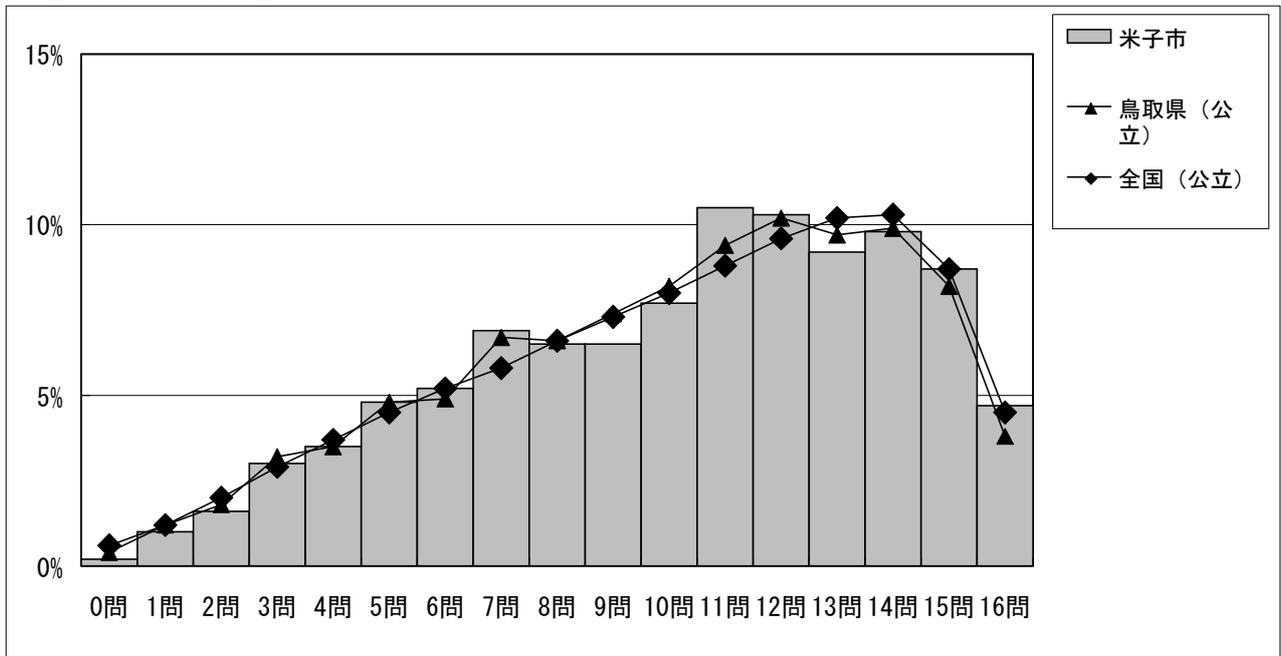
(2) 正答数分布に見る本市と全国との比較

正答数分布グラフ(横軸: 正答数 縦軸: 割合)
【小学校6年 国語】



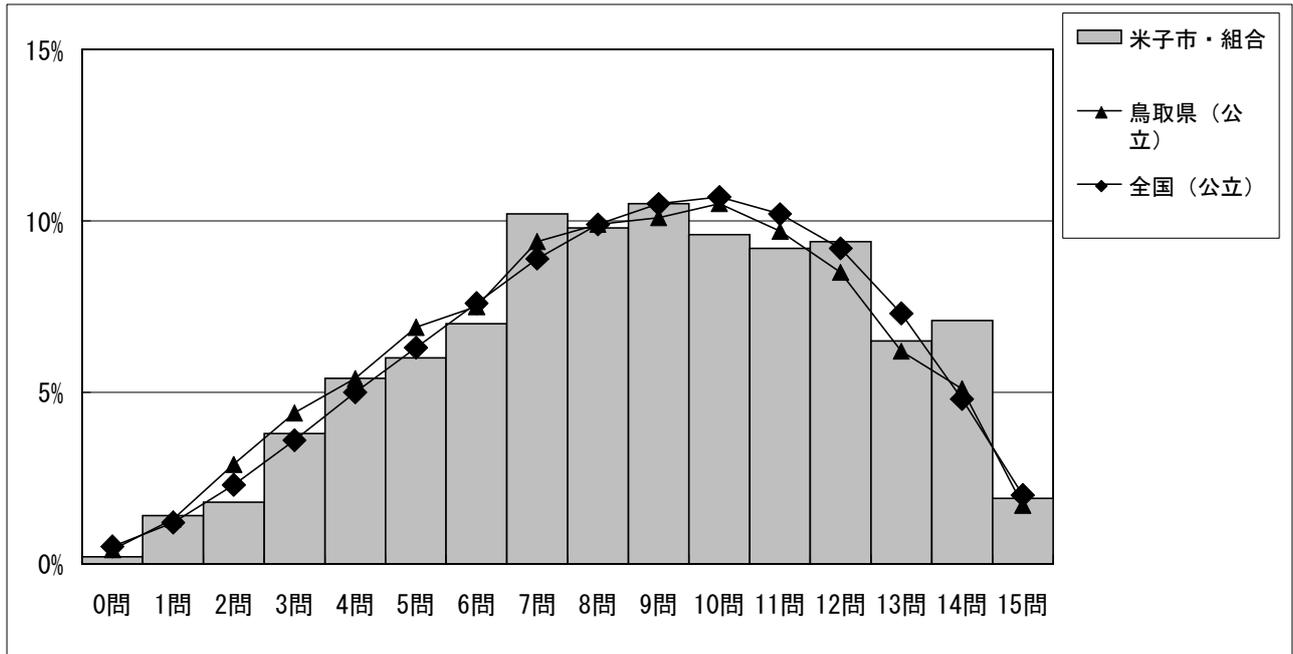
※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
・正答率の分布は、全国と比べ11問以上正答した児童の割合が高い(全国43.4% 市44.9%)状況でした。

【小学校6年 算数】



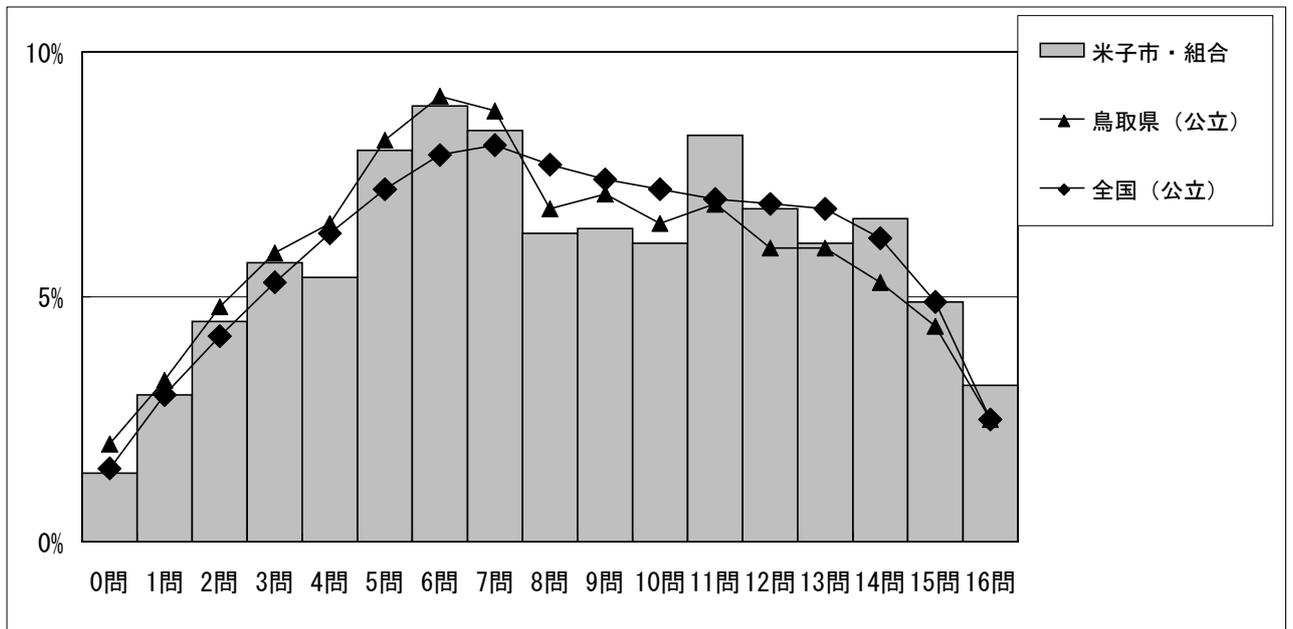
※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
・正答数の分布は、全国と比べ13問以上正答した児童の割合が低い(全国33.7% 市32.4%)状況でした。

【中学校3年 国語】



※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
 ・正答数の分布は、全国と比べ13問以上正答した生徒の割合が高い(全国14.1% 市15.5%)状況でした。

【中学校3年 数学】



※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
 ・正答数の分布は、全国と比べ14問以上正答した生徒の割合が高い(全国15.4% 市17.6%)状況でした。

(3)本年度、中学校3年生の令和3年度(小学校6年生時)と令和6年度(中学校3年生時)の平均正答率の比較

令和3年度(小学校6年生時)の平均正答率			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語	64	64.7	-0.7
算数	70	70.2	-0.2



令和6年度(中学校3年生時)の平均正答率			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語	58.6	58.1	+0.5
数学	52.5	52.5	+0.0

[主な傾向]

○令和6年度(中学校3年生時)の平均正答率の差(米子市-全国)は、令和3年度(小学校6年生時)のそれと比べると以下のような状況でした。

- ・国語(小6年時)はマイナスでしたが、中学校国語ではほぼ同等の状況になりました。
- ・算数(小6年時)はほぼ同等の結果を継続する状況になりました。

(3)子どもたちの学習や生活の様子 ー児童生徒質問紙調査よりー

※全国平均を上回っている数値(色つき)

米子市教育振興基本計画に関連するもの					
「(1)心を育む学びのあるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔9〕	自分には、よいところがあると思いますか	小6	85.9%	84.1%
			中3	82.6%	83.3%
	〔11〕	将来の夢や目標を持っていますか	小6	84.0%	82.4%
			中3	68.6%	66.3%
	〔12〕	人が困っているときは、進んで助けていますか	小6	93.4%	92.7%
			中3	89.2%	90.1%
	〔13〕	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小6	97.0%	96.7%
			中3	95.5%	95.7%
	〔15〕	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小6	95.8%	95.9%
			中3	94.7%	95.2%
「(2)学ぶ楽しさのあるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔4〕	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)(1時間以上)	小6	18.0%	19.8%
			中3	15.8%	16.6%
	〔21〕	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(1時間以上)	小6	51.2%	54.6%
			中3	60.2%	64.3%
	〔27〕	前年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)	小6	53.9%	59.5%
			中3	84.2%	64.4%
小	〔62〕	英語の勉強は大切だと思いますか	小6	92.8%	92.1%
中	〔63〕	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝える活動が行われていたと思いますか	中3	69.5%	68.8%
「(3)郷土で育む学びのあるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔25〕	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	小6	86.2%	83.5%
			中3	72.6%	76.1%
「(4)健康で安心して学べるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔1〕	朝食を食べていますか	小6	94.6%	93.7%
			中3	91.6%	91.2%
	〔2〕	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小6	83.6%	82.9%
			中3	83.2%	80.7%
	〔3〕	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小6	91.4%	91.6%
			中3	92.5%	92.5%
	〔8〕	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っていますか	小6	82.7%	82.3%
			中3	71.7%	76.7%

【全国と本市(学校組合)との比較で特徴的な評価項目】

	肯定的な評価項目(全国との差が+5ポイント以上)	本市 (学校組合)
小	○普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)→1時間以下と回答した児童の割合	+7.9
	○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)→1時間以上と回答した児童の割合	+7.1
中	○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	+6.1
	○1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか→週に3回以上と回答	+19.8

	否定的な評価項目(全国との差が-5ポイント以下)	本市 (学校組合)
小	○5年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか→週に3回以上と回答	-5.6
	○5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	-5.1
	○5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	-5.1
中	○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	-7.7
	○健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	-5.0
	○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)→1時間以上と回答	-6.5

3 結果を受けて

(1)各学年、各教科について

「令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書」(文部科学省 国立教育政策研究所)に示された設問ごとの観点に基づいて、本市としての課題等をまとめています。

なお、各観点ごとに以下のように示しています。

- 全国平均正答率を上回っている、または同値の点
- △ 全国平均正答率を下回っている点

〈小学校6年生 国語〉

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

△ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。〔1〕二(1)〕

△○ 漢字を文の中で正しく使うこと。〔2〕三ア・イ〕

○ 主語と述語との関係を理解すること。〔3〕一〕

情報の扱い方に関する事項

△ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。〔2〕一(2)〕

我が国の言語文化に関する事項

○ 読書が自分の考えを広げることに役立つことを理解すること。〔3〕四〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

△ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること。〔1〕一〕

△ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。〔1〕二(2)〕

○ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。〔1〕三〕

書くこと

○ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。

〔2〕一(1)〕

○ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、書き表し方を工夫すること。〔2〕二〕

読むこと

○ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。〔3〕二(1)〕

○ 人物像を具体的に想像すること。〔3〕二(2)〕

○ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。〔3〕三〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を上回る設問が多い状況でした。

「知識及び技能」について、概ね全国の平均正答率を上回る結果でしたが、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた支援を充実させることが大切です。

「書くこと」では、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについての設問で、全国の平均正答率を3ポイント以上上回る結果でした。また、無回答率も全ての設問において、全国よりも低い値となっています。

「話すこと・聞くこと」においては、内容を検討したり、表現方法を工夫したりすることに課題があります。目的や意図に応じて、自分や相手の考えをまとめられるように指導することが重要です。

〈小学校6年生 算数〉

数と計算

- 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。1]
- △ 数量の関係を、□を用いた式に表すこと[1](2)]
- 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること。[2](1)]
- 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解すること。2]
- 除数が小数である場合の除法の計算をすること。[4](1)]
- △ 示された情報を基に、必要な数値を読み取って式に表し、題意に沿っているか判断すること。[5](4)]

図形

- 直方体の見取図について理解し、かくこと。[3](1)]
- 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること。[3](2)]
- △ 球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと。3]
- 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること。[3](4)]

変化と関係

- △ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること。[4](2)]
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。[4](3)]
- 速さの意味について理解すること。4]

データの活用

- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。[5](1)]
- △ 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理すること。[5](2)]
- △ グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること。[5](3)]
- △ 表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断すること。[5](4)]

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

「数と計算」については、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた最適な支援を充実させる必要があります。問題別では、数量の関係を記号を用いた式に表すことに課題がありました。数量の関係を式に表す練習問題を多く解かせ、問題文の読み取り方や適切な式の立て方を体験させながら理解を深めることが重要です。

「図形」では、立方体の体積を求める設問に課題がありました。身の回りから図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるための必要な情報を判断できるようになることが重要です。

「変化と関係」では、特に道のりと時間の関係についての設問で課題がありました。日常生活の問題場面に照らし合わせて、求めた速さなどの単位量当たりの大きさや割合の妥当性を判断できるように指導の工夫をすることが大切です。

領域として、全国と比して課題が見られたのが「データ活用」でした。児童が必要なデータを読み取れているかどうかを確認するために、データから読み取ったことを伝え合うような活動の充実が必要です。効果的にICTを活用しながら、学習の中でより多様で柔軟な見方、考え方にふれることができる学習活動に取り組みます。

〈中学校3年生 国語〉

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- △ 文の成分の順序や照応について理解すること。〔3二〕
- △ 文脈に即して漢字を正しく書くこと。〔3三〕
- 表現の技法について理解すること。〔4一〕

情報の扱い方に関する事項

- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。〔1三〕
- △ 具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。〔2二〕

我が国の言語文化に関する事項

- 行書の特徴を理解すること。〔4三〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

- 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること。〔1一〕
- △ 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと。〔1二〕
- 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること。〔1四〕

書くこと

- △ 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。〔3一〕
- 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。〔3四〕

読むこと

- △ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。〔2一〕
- △ 章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること。〔2三〕
- △ 目的に応じて必要な情報に着目して要約すること。〔2四〕
- 短歌の内容について、描写を基に捉えること。〔4二〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を下回る設問が多い状況でした。

「知識及び技能」については、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた最適な支援を充実させる必要があります。また、漢字の書きについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要があります。

「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」においては、概ね全国の平均正答率と同程度となりました。自分の考えが話合いの話題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめられるように、話合いの中で、話題を意識しながら経過を捉えて話したり聞いたりすることや、話合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することが大切です。

「読むこと」については、多くの設問で平均正答率を下回る結果でした。より力を付けていくためには、目的を明確にした上で、必要な情報を十分に取り上げているか、自分がまとめた内容と元の文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約することができるように指導することが重要です。

〈中学校3年生 数学〉

数と計算

- △ 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと。〔1〕
- △ 等式を目的に応じて変形すること。〔2〕
- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすること。〔6(1)〕
- △ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。〔6(2)〕
- 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること。〔6(3)〕

図形

- △ 回転移動について理解すること。〔3〕
- 筋道を立てて考え、証明すること。〔9(1)〕
- 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すこと。〔9(2)〕

関数

- △ 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解すること。〔4〕
- 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること。〔8(1)〕
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。〔8(2)〕
- △ グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈すること。〔8(3)〕

データの活用

- 簡単な場合について、確率を求めること。〔5〕
- △ 与えられたデータから最頻値を求めること。〔7(1)〕
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。〔7(2)〕
- 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較すること。〔7(3)〕

[]内の記号は、問題番号

〔全体として〕

全体として、全国平均正答率を上回る設問が多い状況でした。

「数と式」では、多くの設問で全国平均正答率を下回る結果でした。設問によっては、全国平均正答率を3ポイント以上下回る状況もあり、基礎的・基本的な内容の確実な習得と、一層の習熟が図られるような繰り返しの指導が必要です。

「関数」においては、グラフの交点や傾きの意味を事象に即して解釈することに課題があります。表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらの用い方について数学的に説明できるように指導することが大切です。

「データの活用」については、平均正答率を3ポイント以上上回る設問が多くありました。引き続き、複数のデータを比較し、そのデータを活用しながら、数学的な表現を用いて説明するような指導の充実を図っていきます。一方で、最頻値を求める設問については、全国平均正答率を3ポイント以上下回る結果でした。多様にあるデータ分析の方法について、それぞれの特徴を正しく理解できるように、丁寧に指導することが重要です。

(2)児童生徒質問紙調査結果より〈小・中学校共通〉

- 米子市教育振興基本計画に関連する質問事項については、多くの点で全国の平均値を上回りました。
- 小・中学校共通して、多くの児童生徒が人の役に立つ人間になりたいと考えています。
- 小・中学校共通して、学校生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして、解決方法を決めていることがわかりました。
- 家庭での学習習慣や生活習慣の確立に引き続き努める必要があります。スマートフォンやコンピューターの使い方について、家庭での約束を守ることや、使用時間について見直すことは、引き続きの課題ではありますが、こういった端末を効果的に学習に取り入れることも必要であるため、家庭との連携を図りながら、有効に活用していくことが大切です。
- PC・タブレット端末などのICT機器については、昨年度同様小・中各学校で使用頻度に差があることがわかりました。全体として中学校では全国の平均値を大きく上回っていますが、小学校は下回っています。さらにレベルアップを図り、個に応じた学びを実現するための効果的な活用が必要です。
- 小・中学校が児童生徒の学力や生活習慣における課題の傾向を明らかにし、9年間の内容を系統化し、一貫した指導を行っていけるよう、小中一貫教育を推進していきます。

(3)家庭では

児童生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

○基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。

→あいさつや食事、睡眠、朝食の摂取など規則正しい生活リズムを身に付けると、児童生徒の本来の力が発揮されやすくなります。

○家庭で学習する習慣を定着させましょう。

→各校で配布されている家庭学習の手引き等を参考に、学習する時間を見直してみましょう。継続して、計画的に学習することで、学力を定着させることができます。

○新聞を含め、家庭での読書活動をさらに勧めましょう。

→学校の図書館等に、児童生徒を対象とした新聞などもあります。特に新聞を読むと世の中の動きがわかり、社会的なものの見方や考え方が育まれるとともに、語彙力や表現力が身に付きます。

○日常生活の中で社会のルールやマナーを身に付けさせましょう。

→思いやりの心や社会性などの豊かな心を育むことができます。

○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加させたり、郷土の自然や文化にふれる体験をさせたりしましょう。

米子市(学校組合)教育委員会としては、調査結果と他の調査結果を関連させて考察した上で、今後も主体的・対話的で深い学びと個に応じた学びの実現に向けて取り組んでいきます。また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要ですので、今後さらに学校と家庭とが連携できるような取組を進めていきたいと考えています。